

すわみつえ通信

No.103 2019年 12月16日(月)

日本共産党鴻巣市議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かしいのちとくらしを守る市政に

原口市長「ごみ処理施設建設」を白紙撤回

市議会への事前説明なく突然の『白紙撤回』決定

12月13日(金)、本会議会開会と同時に原口鴻巣市長から「昨日、12月12日(木)18時より鴻巣市行田北本環境資源組合の正副管理者の会議を開催し、建設候補地を鴻巣にする基本合意の確認をしたところ、行田市長が納得できないことを表明した。基本合意を『白紙撤回』すること、正副管理者3名全員が確認した。今後は北本市と連携していく。」と発言しました。

突然の決定発言に市議会への事前相談も経緯の説明もないことに、市議会は会議終了後の代表者会議で「全員協議会において詳細な説明を求める」ことを確認しました。

候補地選定においての疑惑や、本体費用が600億円にも膨らんだこと、温浴施設が必要かなど、組合議会で、また各市議会で議論が集中しています。

市長は説明を求める市民の声に責任を果たすべきです。

公共交通のあり方について市と懇談をしました

「鴻巣市社会保障をよくする会」は12月12日(木)午前10時から2時間ほど、市



市の担当者と公共交通のあり方を懇談(市役所1001会議室) = 12月12日

の担当者と公共交通のあり方について、懇談をしました。

市側から、「路線バスは路線の他に平成17年から「ミニミニバス」を運行し現在、年間50万人の利用があり、県では1番となっている。平成30年からの「デマンドタクシー」も多くの方が利用している。」と説明がありました。

参加者からの意見

ミニミニバス

①北鴻巣駅東口から鴻巣中心部方面に行く路線がなくなった。

②(日・祝)の始発・最終便が3時間も早まり、通勤通学で困っている。

デマンドタクシー

①松原在住で北本市のクリニックに通院することが多い。市外のクリニックでも通院先に指定してほしい。

②保育園送迎で園に着き、すぐに引き返すようなときは待っていてほしい。
↓(市側)電話であらかじめ待っていてもらうよう話しておき、園に着いたときに精算し、引き返すときにも新たな精算をすることで利用可。

鴻巣駅東口エレベータ

①鴻巣市の顔である鴻巣駅東口にエレベータがないのはおかしい。高齢者や障害のある方には大変不便。

②大幅な利益を上げているJRにも負担してもらって早急に取り組んでほしい。

市民のための公共交通の充実に向け一緒に声を

市は来年度より、「ミニミニバス」の運賃見直し、「デマンドタクシー」本運行、新たに乗合型「デマンド」交通を始めます。公共交通は「重要施策」として取り組んでいくと説明がありました。交通弱者として交通空白にしないためにも、一緒に声を上げていきましょう。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

知り合いから誘われた会合がきっかけでした。その場で買った50万円の磁気ネックレス。効き目があると信じ込まされ、その後もさまざまな商品を購入。銀行より利息がいいと、多額の出資まで。しかし、手元には一円も戻ってきませんでした▼ジャパンライフの被害にあった栃木の80代の女性です。3人の子供を育てながら必死に働いてためた老後の蓄え。それをすべて奪われ、後悔と不安ばかりが募る日々です▼独り暮らしのお年寄りなどに近づき、健康器具を買わせ、見せかけの「レンタル商法」に出資させる。そんな手口で、およそ7千人を偽り、2千億円もの被害額を出したのがジャパンライフです▼創業したのは、日本のマルチ商法の創始者の一人といわれる山口隆祥氏。同社をつくった1975年にはすでに国会に呼ばれている「有名人」です。良かれと信じる普通の人たちが知人に働きかけて被害をひろげるマルチ商法は、人と人とのつながりや信頼を悪用し、社会に害悪をまきちらすもの▼破綻した同社は、安倍首相から山口氏に届いた「桜を見る会」の招待状を最大限に利用して最後に荒稼ぎし、被害者を増やしました。多くの後援会員をはじめ、悪徳商法の代表や反社会的勢力の人物まで、なぜ税金を使った公的行事に招かれたのか▼深まる一方の疑惑や不信を前に政権与党は国会をわがものにし、強引に幕引きをはかろうとしています。人をだまし、みずからを利するモラル破壊の連鎖。いつまでも逃げ切れるとお思いか。



2019年の「桜を見る会」で参加者にあいさつする安倍晋三首相（首相官邸ホームページより）

ジャパンライフ 元店長

追及本部ヒアリングで証言

「桜を見る会」招待状



「桜を見る会」追及本部のヒアリングで、ジャパンライフ元店長の証言を聞く議員ら＝12日、国会内

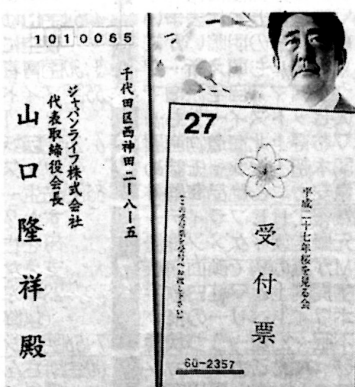
しんぶん赤旗 12月13日付

安倍晋三首相主催の「桜を見る会」の招待状がマルチ商法会社「ジャパンライフ」の元会長に送られていた問題をめぐって、同社の元店長が12月12日、国会内で開かれた野党追及本部のヒアリングに出席し、招待状を見せることで信用を高め、顧客を勧誘していたことを証言しました。経営破綻したジャパンライフの被害者は7000人、被害総額は2000億円近くこのぼりです。招待状をジャパンライフが組織的に活用し、最後の荒稼ぎに使った疑いがいつそう濃厚になりました。

証言したのは、東日本にあったジャパンライフの店舗の元店長です。元社員は、桜を見る会の招待状を使った資料について、「本社でつくられた。山口（隆祥）元会長と担当社員が綿密な打ち合わせをしてつくった」と証言。

全国各地で開催したセミナーで、招待状をプロジェクターで映して説明したとして、「そうすると、ジャパンライフに不安を持っていたお客様も、この資料で信用する」「それで契約もあけられていた」と話しました。

元店長は、安倍首相が「山口氏と個人的な関係は一切ない」（2日の参院本会議）と答弁していることについて、「納得いかない」と指摘。「被害にあわれた方に納得いただける回答を安倍首相にはしていただきたい」と述べて、この場に立つた」と述べました。



ジャパンライフの説明会資料に印刷された山口隆祥会長（当時）あての「桜を見る会」招待状。招待状とともに送られた「受付票」には安倍晋三首相名を明示とみられる「区分番号」の「60」番が（下線部）

「不安もつ客も信用」

しんぶん赤旗 12月11日付

えっ「反社」定義は「困難」!?

政府は10日、安倍晋三首相主催「桜を見る会」への招待が問題になっている「反社会的勢力」（反社）についての定義は「困難」だとする答弁書を閣議で決定しました。立憲民主党の初鹿明博衆院議員の質問主意書に対する回答。答弁書は「反社」について、「その形態が多様」「その時々の社会情勢に応じて変化し得る」から、「あらかじめ限定的、かつ、統一

政府答弁書

従来の指針・説明と矛盾

的に定義することは困難」などと説明しています。

政府はこの間、「反社」の定義について「一義的に定まっているわけではない」（菅義偉官房長官、11月27日の記者会見）などとして、首相の「招待枠」で悪徳マルチ商法で行政処分を受けた「ジャパンライフ」の元会長などの「反社」が招待されていた疑惑の首の責任を事実上かばってきた。しかし、政府の犯罪対策閣僚会議幹事会が決めた「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」（2007年6月19日）は、「暴力、威力と詐欺的手法を駆使して経済的利益を追求する集団又は個人である」「反社会的勢力」と明確に定義。今回の答弁書も、民間企業が同指針を踏まえて「反社」との「関係の遮断のための取り組み」を進めていると認められており、定義は困難という説明には重大な矛盾があります。